



病院の理念

私たちは、地域に根ざした消化器専門病院として、良き伝統を重んじつつ、慈愛と英知を結集し地域医療に貢献する。

基本方針

- 私たちは、生命の尊重と人間愛を基本とし、専門技術、知識、心を患者さんに提供するものとする。
- 私たちは、ひとりひとりが病院の顔であるとの意識を持って、患者さんに奉仕するものとする。
- 私たちは、ひとりひとりが常に技術知識の研鑽、向上に励み、礼節をもって患者さんに心から満足してもらうサービスを提供するものとする。
- 私たちは、患者さんにとって良い医療を、迅速にサービスするものとする。

患者の権利と責任

- 適切な医療を公平に受ける権利があります。
- 病状と経過、検査や治療の内容などについて理解しやすい言葉で説明を受ける権利があります。
- 十分な説明と情報に基づき、自らの意志で医療内容を選択する権利があります。
- 診療上得られた個人情報が保護される権利があります。
- 患者さんは、私たちに對し自らの健康等に関する情報を正確に伝える責任があります。

感染症対策（咳エチケットとマスクの付け方）

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「正しい手洗い」「正しいマスクの着用」「咳エチケット」などの実施がとても重要です。風邪症状があれば、外出を控えて、やむを得ず外出される場合には、必ず、下記の『正しいマスクの着用』を参考に、正しくマスクを着用してください。また、人が集まるところで咳やくしゃみが出る場合は、右のイラストのような『咳エチケット』を行ってください。

正しいマスクの着用



1 鼻と口の両方を確実に覆う



2 ゴムひもを耳にかける



3 隙間がないよう鼻まで覆う

《 厚労省ホームページより 》



マスクを着用する（口・鼻を覆う） ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う とっさの時袖で口・鼻を覆う



何もしずに咳やくしゃみをする 咳やくしゃみを手でおさえる

＊ ＊ 毎日の食卓に『ま・ご・わ・や・さ・し・い』ありますか？ ＊ ＊

《 今回のテーマは、ま・ご・わ・や・さ・し・い 》

＊ **ご** ごま・アーモンド・くり・銀杏など種実類

＜食物繊維・カルシウム・ミネラルなどが豊富＞

良質な脂肪・ミネラルが豊富に含まれているほか、老化の原因となる活性酸素を除去する抗酸化作用のあるビタミンE・セサミン・グリコマンナンなどの栄養素も含まれています。粒のままよりも、刻む・すりつぶすなどして使用する方が栄養素が身体に吸収されやすいです。



＊ **わ** わかめ・ひじき・もずく・寒天など海藻類

＜ビタミン・ミネラル・食物繊維が豊富＞

海藻類には、フコイダン・アルギン酸などの食物繊維が含まれています。

フコイダン	めかぶなど海藻のぬめり成分で食物繊維の一種 生活習慣病の予防に働きます
アルギン酸	コレステロール・血糖値の上昇を抑え便秘を改善する働きがあります

酢・油との相性も良く一緒に食べることで栄養素を効率よく摂取できます。

＊ **や** やさい全般

＜ビタミン・ミネラルが豊富＞

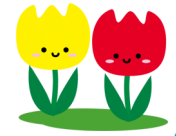
ビタミン・ミネラル・食物繊維など栄養素が多く含まれ、健康な身体を保つために必須の食品です。色々な色を意識して、目標 1 日 3 5 0 g。そのうち色の濃い緑黄色野菜を 1 2 0 g 摂取することが推奨されています。



管理栄養士：伊豫田 桂

後編 編集

春の陽気が心地よく、一番過ごしやすい季節となりました。昨年度に引き続き今年度も新入職員の歓迎会や永年勤続者の表彰式が開催できず、とても残念に思います。以前のように皆様お祝いできる日が待ち遠しいです。（礼）



コロナ感染予防のための対策について

- 玄関で来院者全員の体温チェックと症状確認を行っています。併せて手指の消毒、マスクの着用をお願いします。
※発熱がある場合には、あらかじめお電話で受診方法を確認してください。
- 待合室での密を避けるため、受診までの待ち時間を車で過ごしていただくようお勧めしています。（診察の順番近くなったらお電話で連絡いたします）また、院内 1 階フロアのどこで待っていても良いように対策しています。
- 新型コロナウイルス感染が疑われる症状がある場合、一般の患者さんとは隔離して診察を行うように配慮しています。

それ以外にも社会における感染状況に併せて、その時々により最善と考えられる対応を行うようにし、院内感染予防に努めております。受診の際の疑問や質問などありましたら、お気軽に外来看護科までお問い合わせください。

外来看護科長：寺本佳代



面会の案内

入院患者さんには「面会制限レベル」を設け、周囲の感染状況に合わせて、面会者の制限をしております。詳細はホームページ又は直接お問い合わせください。

医師週間予定表

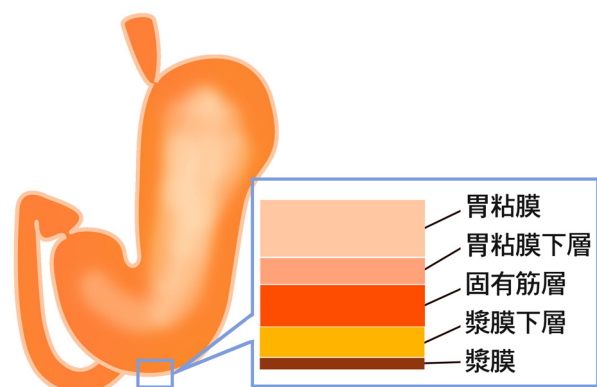
	月	火	水	木	金	土
深尾 院長	外来	外来	検査→外来		外来→検査	外来→検査
安藤副院長	外来	検査	外来→検査	外来	外来	外来→検査
横田 医師		外→検→外	外来	外来	外来	外→検→外
伊藤 医師		外来→健診	健診→外来	健診→外来	健診	健診
齋藤 医師	外来	外来	外来	検査→外来	検査	外来
前田 医師	検査	外来	外来	外来→検査	外来	検査→外来
神谷(関) 医師	外来→検査	外来→検査	検査	外来	外来	外来
加藤 医師	外来	外来	外来→検査	外来→検査	検査	外来→検査
舟曳 医師		外来→検査	外来			
榊原 医師				検査→外来		

胃潰瘍とは

医師：齋藤 慎一郎

上腹部痛を訴えて来院される患者様の中には、胃潰瘍を心配され内視鏡検査を希望される方が多くいらっしゃいます。そもそも胃潰瘍とはどんな病気なのでしょうか？

胃潰瘍とは何らかの原因により、胃の壁が粘膜より深い層まで傷ついた状態をいいます。(粘膜までの傷を「びらん」といいます)



十二指腸のはじめの数 cm にも潰瘍が発生することがあり、胃潰瘍と合わせて消化性潰瘍と呼ばれています。

胃潰瘍の患者数は減少傾向にあり、1990年代と比較して2014年には約1/4まで減っているという報告がありますが、依然として多くの発生を認めます。患者数減少の要因としては、2000年より胃十二指腸潰瘍に対するピロリ菌除菌治療の適応が認められ、さらに2013年にはピロリ感染性胃炎に対しても除菌治療の適応が拡大され、ピロリ菌に感染した患者さんが急速に減ったことが大きく関係しているといわれています。

❖ 原因

胃潰瘍はどのようにして起こるのでしょうか？胃粘膜防御機構という考え方があり、攻撃因子である胃酸の分泌が過剰になったり、胃粘膜を守る防御因子が弱くなったりすることで、攻撃と防御のバランスが崩れて胃の壁の損傷が引き起こされると考えられています。具体的な原因としては、ピロリ菌感染と薬剤性によるものが2大要因として知られています。両者とも胃酸の分泌過剰ではなく、胃粘膜保護の防御因子の破綻が関連しているといわれています。



ピロリ菌感染が原因の胃潰瘍は男性に多く、単発性で胃の真ん中から上部に認められることが多いです。ピロリ菌は胃に感染する細菌で、胃炎・胃潰瘍・胃癌の発生に関連します。ほとんどの場合小児期に感染し、除菌を行わないとピロリ菌に感染した状態が持続します。前述のようにピロリ菌の除菌が進み、以前よりかなり減少したといわれています。

薬剤性の胃潰瘍は、鎮痛薬として用いられる非ステロイド性抗炎症剤や、抗血栓薬として用いられる低容量アスピリンなどが原因となります。高齢女性に多く、胃の出口側に多発することが多いです。また出血や狭窄などの合併症の頻度も比較的高いといわれています。

これらの2大要因以外の原因はどうでしょうか？胃癌やリンパ腫の様な腫瘍によるもの、サイトメガロウィルスや梅毒等の感染によるものなど様々な原因があります。原因が

はっきりしない潰瘍もあり、突発性潰瘍と呼ばれています。突発性潰瘍の原因としては高齢、背景疾患、ストレス性などが誘因といわれており、胃潰瘍全体の約12%を占めるという報告もあります。最近の報告としては2011年に発生した東日本大震災後に、ある被災地における潰瘍の発生が1.5倍に、出血性胃潰瘍の発生が2.2倍に増えたというデータがあります。突発性胃潰瘍の原因としてストレスが大きく関わっている可能性があります。

❖ 症状

胃潰瘍の症状は腹痛・吐き気・胃部不快感など様々ですが、まったくの無症状のこともあります。また出血・穿孔・狭窄などの合併症が起こることもあります。約2/3の患者さんが上腹部痛を認め、痛みの性状としては鈍く、疼くような、焼けるような痛みとなることが多いです。食事との関連は強く、潰瘍の部位により、食後や空腹時や夜間に痛みを呈します。また約半数の患者さんには、嘔吐や吐き気を認めます。



胃潰瘍から出血を伴うと、吐物の中に血性や黒色の成分が混じることや、タール便といわれる黒色の便が出ることもあります。出血量が多量になると、頻脈や血圧低下といった貧血に伴う症状が現れ、内視鏡による止血や手術・輸血などの処置を要します。

胃潰瘍が深く胃の壁に穴が開いてしまうと、胃の内容物が漏れ出し、腹膜炎を起こし持続する強い腹痛を認めます。潰瘍が穿孔した場合には、緊急手術が必要なことが多く、腹膜炎がひどいと致命的となることもあります。

❖ 治療

胃潰瘍の治療としては、胃酸を抑える薬や粘膜を保護する薬などを内服することにより行います。胃潰瘍の原因となる薬剤の内服があれば、可能な限り薬の中断や変更を行い、その後ピロリ菌感染が確認されればピロリ菌の除菌治療を行います。また癌などの腫瘍が関係していないか、内視鏡にて細胞を採取して検査します。

診断時の内視鏡検査にて、胃潰瘍からの出血が認められた場合には止血処置を行い、貧血が認められれば、輸血や鉄剤などの貧血治療も行



います。大きな潰瘍や症状が強い場合には、入院による治療が必要となる場合もあります。内視鏡での止血が困難であったり、狭窄や穿孔などの合併症が起こっている場合には手術を行うこともあります。

胃潰瘍治療中の食事については、カフェイン、たばこ、アルコール、香辛料などの胃酸の分泌を促す食品や刺激物の摂取を控え、消化の負担となるような脂肪や食物繊維の多い食事を避け、出来るだけ消化のよいものを摂取しましょう。また自分にあったストレス解消法を見つけ、規則正しい生活・食生活を心掛けてゆっくり休むことも大切です。

